

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 生徒のニーズに合った教育課程を実践していますか。	① 少人数指導や習熟度別指導などのきめ細かな指導に満足している生徒が80%以上である。	少人数制や習熟度別、ティームティーチング(TT)による授業を積極的に取り入れると共に、指導の方法や内容を評価検討し改善する。 各コースの特徴を生かした教育課程の編成に努める。また専門教科・科目の授業内容を検討工夫して魅力あるものにする。 学習活動に盛り込む体験活動や地域の自然や文化について、興味や関心を高める教材を工夫研究して授業に反映させる。 中高双方向での交流授業や出前授業を各教科で計画し、積極的に実施する。	B	A	少人数指導や習熟度別授業などのきめ細やかな指導を今後も継続して充実を図る。	A	A	少人数指導や習熟度別授業できめ細かな指導、個の意見を取り入れた学習を工夫し、知識技能の定着、充足感の獲得、自主的な活動を引き出す取組を行う。
		② コース別の特色ある学習活動に満足している生徒が80%以上である。		B	A	今後も4コースの特徴を活かすような学習を行い、授業内容を検討改善し充実を図る。	A	A	4コースの特徴を活かし、生徒の学習意欲を引き出す授業内容となるよう検討・改善する。
		③ 地域の自然、文化・歴史などの学習に興味を持ち面白いと考えている生徒が75%以上である。		A	A	地域の伝統文化に関して理解が深まるような体験的活動を検討し実践する。	A	A	地域の自然・伝統文化についての興味関心を深め、環境保護と文化を大切に育心を目指した体験的活動を実践する。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 交流授業や授業公開を行った教科が全体の80%以上である。	6月と1月に授業アンケートを実施する。	A	A	全般的には分かりやすい・丁寧な指導等の評価であった。今後も、学習意欲の向上、知識技能の定着・授業規律の向け工夫改善に取り組む。	A	A	生徒の学習観点を取り入れ、学習意欲の向上、知識・技能の定着、授業規律の向け工夫改善に取り組む。
		⑤ 授業に対する生徒の評価アンケートを年間2回実施し、授業改善に生かす。	図書部とも連携し、読書の面白さや有用性を実感させる。	A	A	学級図書を活用し、読書の面白さや有用性を実感させる。	A	A	朝読書をきっかけとして読書の面白さや有用性を実感させ、コミュニケーション能力の向上を図る。
		⑥ 毎日の「朝読書」に真面目に取り組んでいる生徒が80%以上である。	生徒個々の特性と目標を把握した上で授業や補習を行うと共に、授業見学や研究授業により授業力の向上を図り、基礎的基本的な学力の確実な定着と向上を図る。	B	B	今後とも、授業改善を推進し、わかりやすい授業を実践するとともに特別支援の視点も取り入れて授業改善に取り組む。	A	A	授業改善を推進し、わかりやすい授業を実践するとともに、特別支援教育の観点も取り入れて授業改善に取り組む。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 授業が分かりやすいと感じている生徒が80%以上である。	学年会議、生活係会議、ガイダンス相談部会議、特別支援会議などを通して情報交換を行い、日常の指導に反映させる。 全職員が月1回以上登校時指導を行い、授業中や休み時間中の挨拶を職員が自ら率先垂範する。 生徒指導部・ガイダンス相談部・特別支援係による相談体制を充実させるために、年3回の相談週間を設ける。 担任による三者面談の他、校長・教頭による個別面談やガイダンス相談部・特別支援係による面談も随時行う。	B	A	生徒の基礎的基本的な学力が向上するように授業力の向上を図る。	A	A	生徒の基礎的基本的な学力が向上するように授業力の向上を図る。
		⑧ 基本的な学力が付いてきたと実感する生徒が75%以上である。	家庭との連絡を密にとると共に、無断欠席・遅刻者に対して生活習慣反省書を導入し、継続した指導を行う。 規定に抵触する生徒に対して警告票を発行し、生活習慣反省書も活用することで指導を徹底させる。	A	-	今後も各担当分野での情報交換を積極的に行う。	A	-	今後も各担当分野での情報交換を積極的に行い、情報の共有と連携した活動で指導の徹底を図る。
		⑨ 先生に相談しやすいと感じている生徒が80%以上である。	キャリア教育の意義を理解させ、企業や学校の協力を得て、事前事後学習を工夫し、充実したものとする。 昨年度に比べ、時期・日数・生徒評価等、改善した。事前事後学習を工夫し、短期間で効果的な学習を行う。	A	A	今後も学校にかかわる全員が、すすんであいさつができるように指導を継続する。	A	A	今後も学校にかかわる全員が、すすんであいさつができるよう、生徒への指導と教師自らの取組を継続してすすめる。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩ 個別のニーズに応えられるように、全員の生徒に対して年2回以上の面談を行う。	進路指導部による進路通信、各学年による学年通信を発行し、進路情報を提供する。 年度当初に進路関係の行事を連絡し、各生徒が段階的に進路目標の明確化できるよう誘導する。 面談や保護者の連携を密にして、生徒の適性と将来を見据えた指導を組織的に展開する。	A	B	第2回以降の相談週間の際には、事前告知の充実を図ることと、有効活用を図るための情報提供を行う。	A	C	相談受付方法の検討・改善や、各教員のカウンセリング能力向上の研修を計画したい。
		⑪ 欠席・遅刻の際には保護者からの連絡を徹底している家庭が80%以上である。	キャリア教育の意義を理解させ、企業や学校の協力を得て、事前事後学習を工夫し、充実したものとする。 昨年度に比べ、時期・日数・生徒評価等、改善した。事前事後学習を工夫し、短期間で効果的な学習を行う。	-	A	今後も必要に応じて随時面談を行う。	A	-	様々な場面での面談を企画・実施し、生徒の困り感の解消に向け、随時面談を行う。
		⑫ 本校で定めた服装・頭髪規定を遵守していると考えている生徒が75%以上である。	進路指導部では群馬県全体の高校進路状況やトレンド、各学年では進路目標の設定や校内の進路行事の連絡など、それぞれの角度から情報提供に努める。 総合的な学習の時間に進路ノートを活用し、事前準備に時間を掛け、効果的な進路ガイダンス実施に努める。	A	A	今後も指導を継続し、社会人としての身だしなみを身につけさせる。	A	A	指導の継続をととして、自ら社会人としての身だしなみを身につけさせる。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬ 企業・学校見学を有意義だと思う生徒が80%以上である。	キャリア教育の意義を理解させ、企業や学校の協力を得て、事前事後学習を工夫し、充実したものとする。 昨年度に比べ、時期・日数・生徒評価等、改善した。事前事後学習を工夫し、短期間で効果的な学習を行う。	A	A	1学年では企業見学と学校見学をそれぞれ分けて実施し、2学年では第2回進路希望調査により、見学会を実施する。	A	A	早期から系統的な進路指導を充実し、生徒個々の意欲・活動を引き出すための事前指導に取り組む。
		⑭ インターンシップに参加し、有益な体験であると考えている生徒が80%以上である。	進路指導部による進路通信、各学年による学年通信を発行し、進路情報を提供する。 年度当初に進路関係の行事を連絡し、各生徒が段階的に進路目標の明確化できるよう誘導する。 面談や保護者の連携を密にして、生徒の適性と将来を見据えた指導を組織的に展開する。	C	A	夏季休業中に日程変更、受入企業による生徒評価表の作成など見直し改善した。3学年では、コースを超えて介護福祉系の職場体験を実施し、進路選択の一助となった。	C	A	キャリア教育の軸とするため、藤岡市内の中学校との連携も含め、さらに工夫・改善に努める。
		⑮ 適切な進路情報を提供していますか。	進路関係の配布物に目を通してしている生徒が70%以上いる。 進路ガイダンスを各学年ごとに実施すること。 進路希望を実現する生徒が80%以上である。	-	-	上述の改善策を効果的に実施し、系統的な指導に努める。	A	B	来年度以降も厳しい進路状況が想定されるため、今後も、より有益な情報の発信に努める。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	8 体験的・計画的な指導を行っていますか。	⑯ 進路ガイダンスを各学年ごとに実施すること。	進路指導部による進路通信、各学年による学年通信を発行し、進路情報を提供する。 年度当初に進路関係の行事を連絡し、各生徒が段階的に進路目標の明確化できるよう誘導する。 面談や保護者の連携を密にして、生徒の適性と将来を見据えた指導を組織的に展開する。	A	A	総合的な学習の時間に進路ノートを活用し、事前準備に時間を掛け、効果的な進路ガイダンス実施に努める。	A	A	社会の状況を知るための外部業者(進路支援)によるガイダンスとともに、学校オリジナルの進路ガイダンスも工夫し、取り入れたい。
		⑰ 進路希望を実現する生徒が80%以上である。	面談や保護者の連携を密にして、生徒の適性と将来を見据えた指導を組織的に展開する。	-	-	上述の改善策を効果的に実施し、系統的な指導に努める。	A	A	卒業予定者の97%が進路決定している。未決定者の指導に取り組むとともに、来年度に向けた準備・対応策の検討に着手していく。
		⑱ 進路希望を実現する生徒が80%以上である。	面談や保護者の連携を密にして、生徒の適性と将来を見据えた指導を組織的に展開する。	A	A	5月と9月に公開授業を実施した。3回目は2月に行う予定である。	A	A	公開授業の実施方法を工夫し継続する。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 適切な進路情報を提供していますか。	⑲ 学校の教育活動を理解してもらうために、「学校公開」を年3回以上実施している。	P T A総会や学年保護者会開催日などに公開授業を行う。 学年便りを家庭向けに年10回以上発行する。また学校ホームページ及び携帯サイトのコンテンツを充実させる。 学校説明会を実施する。また、中学校訪問を実施する。	A	A	ホームページの更新や学年便りの発行は定期的に行い情報発信をしている。	A	A	ホームページの更新や学年便りの発行の継続とコース便りの発信も行う。
		⑳ 学校のホームページを更新したり学年通信を発行し保護者等に情報発信をしている。	面談や保護者の連携を密にして、生徒の適性と将来を見据えた指導を組織的に展開する。	A	A	5月に中学校訪問を実施し、7月には学校説明会を実施した。随時、学校見学は実施する。	A	A	中学校訪問を増やしたり学校説明会の実施内容を改善する。なお、学校見学の随時実施は継続する。
		㉑ 中学校との連携をはかるとともに「学校説明会」や「中学校訪問」を実施している。	面談や保護者の連携を密にして、生徒の適性と将来を見据えた指導を組織的に展開する。	A	A	5月に中学校訪問を実施し、7月には学校説明会を実施した。随時、学校見学は実施する。	A	A	中学校訪問を増やしたり学校説明会の実施内容を改善する。なお、学校見学の随時実施は継続する。